



すべての子どもが得意技を披露

18日(土)に、年長の竹馬披露会を実施しました。今年は暖冬で、さほど寒くなかったとはいえ、冬に裸足で竹馬に乗るのですから、子どもたちは結構「冷たい」と連発していました。寒い日でも、教室前の廊下や園庭で毎日、練習をしました。毎年、感心するのは、子どもたちが凄い力を発揮することです。最初はあんまり興味を示さなかった子どもでも、披露会の日が近づくと尻に火がついた感じで、技を身に付けていきます。



暖冬で安心していただけなのに、披露会の週に入ったとたん急に天候が悪化して、連日雨天で気温も下がり、披露会の日をずいぶんと心配しました。残念ながら、当日も生憎の雨模様のために、園庭でするかピロティードするか空模様を見ながら判断に迷っていました。一旦、ピロティードと決断すると、お父さん方も臨機応変に対応し、道具の出し入れを手伝っていただきました。



披露会が始まると、子どもたちは、これまで練習してきた得意技を次々に、披露しました。トップバッターの3人が、いきなり高難度のTTスタイル、階段昇降や片足けんけんの技を披露し、注目を集めていました。

カニの横歩き、ぴよんぴよん跳び、片足歩き、階段歩きなど、多彩な技の披露に、涙する保護者の方もおられました。今年は、私が、幼稚園に赴任して初めて見た技もありました。竹馬を交差して歩くばってん歩き、本来の足乗せではない反対の少しはみ出したところに乗って歩く反対乗りの技を披露した子どももいました。この竹馬乗りを通して、子どもたちは、最後まで粘り強く頑張れば、「できる」という自信を身に付けたと思います。

竹馬乗りの活動は、育ってほしい10の姿の健康な心と体、自立心に適合していると考えています。



幼・小連携深める小学校見学

皆様ご存じのように、文科省は、小学校へ入学してくる幼稚園児、保育園児、認定こども園児が、同じスタートラインに立って教育を受けることができるように、全国共通に幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を提示しました。

そこで、小学校は、各園がどのような年間指導計画の下に10の姿を具現化しているのかを知った上で、小学校としてのカリキュラムを編成しなければなりません。(スタート・カリキュラムと言います)

一方、各園も、子どもたちが進学する小学校が、どのような教育を行っているのかを知った上で、年間の指導計画を編成しなければなりません。

(アプローチ・カリキュラムと言います。)

また、10数年前に、「小1プロブレム」という問題が顕在化しましたが、この問題の解決のためにも幼稚園、保育園等と小学校の連携がとて大切になってきました。入学者の名前の確認程度の連絡会から、教育内容面での保幼小の連携が強く求められるようになり、今日に至っています。

幼小連携の一つとして、うめ組が、24日(金)に、ゆり組とさくら組が、30日(木)に、赤坂小学校を訪問しました。4月に小学校へ入学する年長さんは、大きな声であいさつし、とても礼儀正しく見学することができました。赤坂小の1年生から3年生の各教室と幼稚園にはない体育館や給食室、音楽室や理科室を見学しました。訪問した全クラスに、卒園児が在籍し、子どもたちが授業中の室内に入ると、照れくさそうな顔をして出迎えてくれました。しかし、授業に集中し真剣な顔をした卒園児の顔を見た子どもたちも、緊張感が見られ、小学校の授業を静かに、そして、真剣に見つめていました。

見学後、ランチルームで給食を頂きましたが、初めての学校給食も、副食がおでんということで、お代わりする子どももいて、美味しくいただきました。

